あとがき

書きはじめたときは、この半分ほどの頁数におさめるつもりだったのだが、思いのほか長くなってしまった。『古事記』や『日本書紀』の面白さと史書としての充実ぶりを若い人に知ってほしいと願ったことが、長くなった理由である。

戦後生まれの人たちが『記紀』をはじめとする日本独自の史書に興味をもたないという懸念は「まえがき」にも記したが、とくに五、六十代の人にその傾向が強いように感じる。

本書掲載の写真撮影や取材のために大和を訪ねたり伊勢に足を運んだりしたが、どの神社でも、きちんとした礼儀作法で参拝する若い男女の姿を見かけて頼もしく感じた反面、五十歳前後と思われる団体客の不作法に眉をしかめた。

若い男女の参拝を見かけるのは靖国神社でも同じである。私にとって兄がわりだった従兄弟が特攻隊で戦死しているのでよく参拝するのだが、この数年拝殿で熱心に祈る若者の姿を見かけるようになった。

世界に類例のない歴史の長期継続性をもち、『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』『古語拾遺』『先代旧事本紀』『住吉大社神代記』そして『勘注系図』などおどろくほど古い史書が現存しているこの日本という国に生まれたことに感謝しなければならない。

また国難に際して命を犠牲にしてこの国を守ってくれた先人たちにも感謝しなければならない。

擱筆にあたり、ハードSF研究所所員の皆様や大山茂夫・金久与市の諸氏ほか有益な知識を授けてくださった方々、また諸文献の著者や図面転載を認めてくださった方々に、厚く御礼申し上げる。

（著者）

第三刷のあとがき

本書はかなりの長篇だが予想外に評判が良く、第一刷、第二刷ともに比較的早期に品切れになった。

その後、本書の内容の文献史学の側面を分かりやすく短くまとめて、『卑弥呼一問一答』を著し、同じ出版社から刊行した。

ところが、この『卑弥呼一問一答』を読んでくださった多くの読者から、本書増刷の希望が寄せられた。

そこで、二百頁近い修正をほどこして、第三刷をつくることにしたのが本書である。

本書の初刷について、励ましのお言葉を賜った、田中卓・西尾幹二・小堀桂一郎・藤岡信勝・石井英夫・海部光彦（籠神社宮司）・南原次男（古代史家）・・・他の先生方に、厚く御礼申し上げる。

また、インターネットによる推薦など多くの声援を下さった、古代史テーマＳＦに興味をお持ちの、高千穂遙・斉藤伯好・堀晃・森下一仁・横田順彌・・・など作家の方々に、深く感謝する。

（著者）